

大量の花粉を飛散させていく。一方、スギは成長が早く、建築材料として優れており、県内でも江戸時代か

未来を開く

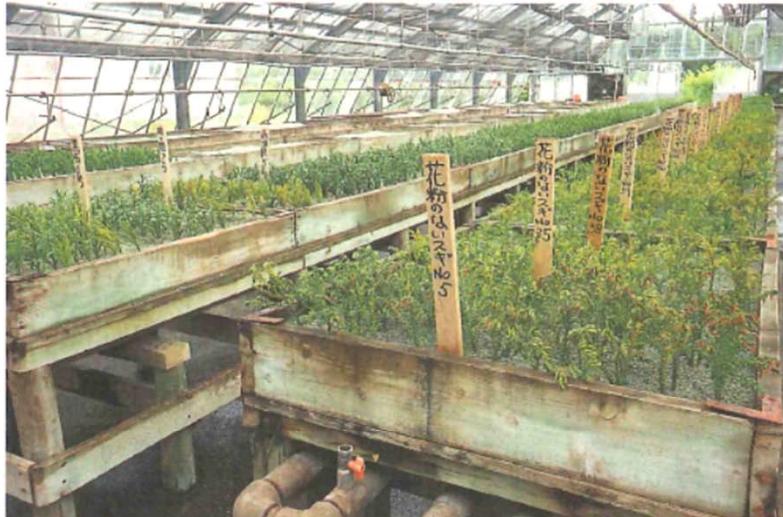
青森県技センター報告

—28

少・無花粉スギを開発

欠かせない

このため、林業研究所では、1999年からスギ花粉症対策品種の開発に取り組み、本県の自然環境に適した二つのスギを選抜・開発した。



育成している 無花粉スギの 挿し木苗

毎年春先になるとスギの木による花粉症で悩む県民も多い。現在、本県の県土面積の約2割がスギ林で、3月中旬から4月にかけて

苗木 18年以降に出荷

ら植栽されてきた。近年、スギ花粉症患者が増加しているが、スギは本県の林業振興に

ばさない「無花粉スギ」である。無花粉スギは、日本で最初に富山県内で発見された花

粉の無いスギと、本県産の成長が早い品種を人工的に交配させてつくった。複数の母樹

用穂木を生産するための採穂園を整備している。本県のよ

5年間の生育調査で成長が早くまっすぐ育った20品種を選抜した。
現在それぞれの品種で、苗木生産用の種子を採取するための採種園と、挿し木

トがある。

少花粉スギは本年度、苗木生産事業者へ種子の販売を予定しており、早ければ2018年から苗木が一般に出回ることになる。無花粉スギは生育調査の期間を必要としたため少し遅れて、21年から種子と穂木を販売し、23年からの苗木出荷を予定している。

スギ林が花粉症対策品種の

木本植物が花粉症対策品種の
スギに置き換わるには長期間
を要する。少しでも花粉を減
少させて花粉症患者が増えな
いよう、今後も品種の研究と
普及を推進していく。

(林業研究所森林環境部) 田中功二

東奥日報 平成28年10月21日掲載
この記事は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したもので